

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101448		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和の邑		
所在地	熊本県熊本市西区城山大塘4丁目1番15号		
自己評価作成日	令和4年 8月 1日	評価結果市町村報告日	令和4年10月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者との和」「地域との和」「職員の和」この3つの和を法人の理念として掲げています。田園風景の中にある施設で家庭的な環境を基盤にご利用者、職員が楽しく和気あいあいとたまには喧嘩もしながら穏やかに過ごしています。喜怒哀楽の絶えない雰囲気を中心にいつもご利用者がいます。今年度もコロナ禍の影響で外出出来ず、なかなか日々の生活に楽しさを持つことが難しいですが、その中でどのようにしたら楽しみのある生活を送っていただけるか日々全職員で考え、支援させていただいています。ご家族とも直接面会することが難しいですが、窓越しでの面会やタブレットを使用してビデオ電話での面会を取り入れています。今年も地域の方々とは接することができず、地域貢献が難しいですが、地域に根付いた施設になれるよう努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年8月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開放的な田園風景の中に位置する事業所は、従来から継続されている3つの「和」を理念とし、穏やかな生活が営まれています。掲げられた事業所の年間計画には4つの重点項目と具体的計画が明確になされ、それらに繋がる職員一人ひとりの目標も振り返りを持ちながら実践されています。今年度の年間計画では「入居者が心地よく生活できるため」に加え「職員も心地よく働けるように」の思いが込められていることが聞かれました。日々のスローガンでは「笑顔で接する」「ケアの前の一呼吸」「相手の立場にたつて」が掲げられ、取組まれています。職員面談では、「時には意見の違いがあっても、何でも言い合い、話合える」「管理者を中心に職員が同じ方向を向いている」の意見が聞かれ、働きやすい職場作りがなされている様子が見えました。コロナ禍であるからと諦めることなく、「出来る時に出来る事を」と取組まれている様子が見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての基本理念「三つの和」「利用者との和」「地域との和」「職員の輪」を掲げ、さらに事業所独自の基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を見やすい所に掲示し、管理者並びに職員がサービスの基本方針として共有し、又、事業所会議の中でも確認し合い意識づけを行っている。	法人理念・事業所の基本方針と目標を掲げ、職員会議の際にも確認を行っている。理念は重要事項説明書にも記載されており、入居者・家族へも説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体として、「一職員一地域貢献」を目標に地域との交流を図っている。事業所独自の取り組みとしては、地域の廃品回収への参加、地域商店会での買い物、施設まわりの散歩等を通して地域の方との交流に努めている。、町内運動会、夏祭りの参加、レストランでの食事、ボランティアの受け入れ等はコロナの影響で現在は実施できていない。	従来より法人全体で地域との交流を図っており、地域行事の参加や法人事業への地域からの参加等、交流が見られた。現在はコロナ禍で行事等による交流は難しいが、事業所敷地には毎朝のラジオ体操に地域住民が集ったり、入居者の近隣散歩等、日常的な交流が続いている。地域住民や民生委員の来訪や声掛けも見られる。地域包括支援センターにより地域資源の「マップ」が作成されている。交流室があり、地域住民の利用も見られる。	法人基本理念で「地域との和」も掲げられており、日常的な交流の様子が聞かれました。現状、地域住民と法人・事業所の関わりは聞かれましたが、入居者との交流が難しい状況が伺えました。コロナ禍が落ち着いた際には以前のような交流の姿が見られることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会をとらえて認知症についてや、それぞれの介護施設の特徴についてなどの勉強会を行っている。運営推進委員は地域の自治会長に必ず入っていただけるようになり、地域との連携が取りやすくなった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナの影響で2か月に1回の書面での開催となっている。本年度の事業計画に基づいた活動報告や利用者の状況報告等を行っている、サービス情報の公表、本年度の取り組み目標の報告を行っている。又、委員さんより地域の状況、活動について教えていただくことでサービスの質の向上に繋がっている。	今年度も運営推進会議は書面による報告を行っている。開催時には、事業所の状況や活動報告だけでなく、年度第一回目には年間事業計画として事業所の重点項目等取り組み目標も報告し、開催の都度、身体拘束廃止や認知症等、勉強会の内容も共有している。運営推進会議メンバーである地域役員の方の来訪もよくみられ、職員からの挨拶等声掛けも行っている。	

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で市主催の集団指導や介護相談専門員の受け入れ、施設意見交換会等の実施が出来ていないが、書面などで担当者より現況や指導を受けている。不明な点等は、その都度市の担当者へ連絡し指導を受けている。	コロナ禍の状況がなかなか収まらず、市とは直接会う機会が少なくなっているものの、日頃の報告・連絡・相談で事業所の様子を伝え、例年介護相談専門員の受入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために事業所会議にて勉強会や話し合いを通して、学習するようにしている。又、日頃から拘束しないケアに努めている。	身体拘束廃止についての勉強会を定期的に行い、職員会議の際にも具体的な事例を用い話す機会としている。事業所では接遇に関する3つのスローガンを掲げ取り組んでおり、毎日日誌に記載することで職員間の意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待について、勉強会を行っている。現場でも「不適切ケアが虐待の芽」という認識の上、日々のケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見制度を利用されている。今度も研修会に参加し学習会等に取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所日に必ず家族へ契約内容等の説明を行い、同意を得たうえで署名、捺印をもらっている。コロナ禍の影響で県外におられる家族には書類を郵送し、署名、捺印をもらい、返送していただいている。又、家族の疑問、希望、納得を得るように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談専門員が2か月に1回訪問され、指摘されている内容を運営に反映出来る様に取り組んでいる。(現在は休止中) 又、利用者情報を職員が共有出来る様に申し送り帳とケース記録に記載している。家族の意見は、電話(リモート面会)などでコミュニケーションを取り把握するように努めている。又、法人内に第三者苦情受付窓口を設置し事業所内にも意見箱を設置し対応している	家族との気軽な面会が難しくなっている昨今、オンラインや電話等も利用しながら窓越しの面会受入れも行っている。機会を作り来訪頂ける家族には職員から直接入居者の日々の状況を報告し、遠方等で面会が難しいご家族にはオンラインや電話で報告するとともに意見を得る機会としている。事業所からは、広報紙に加え、担当職員が毎月入居者の様子を記した手紙を送り、意見が出しやすい関係作りに努めている。	

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の運営方針に基づき、職員間でチームの年度目標を設定し、実践している。又、毎月の会議の中で、先月の反省を行い、改善すべき点は改善に繋げ、全員の意見が出せるようにしている。	法人より毎年出されるチーム目標に向けた事業所目標、またそれに向けた個人目標も定め取組んでいる。管理者は日頃から職員の意見を聞く姿勢を持ち、職員は管理者面談や毎月の職員会議においても意見を表す機会がある。職員から出された意見や提案は必要に応じて施設長や法人にて検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標管理シートを作成し、接遇の向上、サービス・ケアの質の向上、個人目標を設定し、それが達成できるように互いにサポートしている。又、日頃から現場の勤務実態、努力、実績、悩みなどを観察し、必要に応じて直接面接し把握できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の研修や職員研修に参加したり、自己研磨に努めたりしている。又、OJTの実施も行っている。今度コロナの状態を見ながら、外部研修などの参加を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にあるグループホーム3事業所で、情報交換やサービスの質の向上に向けての勉強会を行っている。法人内でも研修を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面接を行い、アセスメントを行いながら情報把握に努め、安心して入所していただけるような環境づくりを行っている。又、家族や担当のケアマネジャー、ソーシャルワーカーとの連携を取り、利用者の生活スタイルを継続出来るようにしている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や入所前に自宅などに訪問しご家族の要望や想い、サービスについての意見など、傾聴する機会を作っている。又、事業所の介護方針、サービス内容をよく説明し十分に理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの見学を勧めていたが、コロナの影響もあり、電話で詳しく施設の様子を伝えている。又、必要に応じて他のサービス事業所や市の窓口、包括支援センター、他のグループホーム等の情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志を確認しその思いを尊重している。又、本人の能力を發揮できるような環境づくりを行い、出来る事は極力本人に行っていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族会を行っていたが、コロナの影響で今年度は出来ていない。その代わりにリモート面会を行っており、利用者と家族が顔を見ながら話ができる環境を設定している。月1回広報誌を作成し、日頃の様子を写真等で記載し報告している。又、今度いつでも面会が出来るように来やすい雰囲気作りを心がけている。通院同行はなるべく家族に行ってもらおうようにしている。誕生会に家族は参加できないが、家族から希望があれば、その時の様子を動画で撮影し家族へ送るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人が来所しやすいように支援している。又、同法人内を利用されている知人の訪問等もあっていた。利用者の地元めぐりのドライブ等も行っている。コロナの影響で現在は実施していない。	従来、家族だけでなく地域の知人等の来訪もよく見られる事業所であった。現状、面会の制限も余儀なくされているが、家族との関係が途切れないよう広報誌や手紙、動画等を利用している。専門医受診の際には出来るだけ家族の協力もお願いしている。コロナ禍においても事業所周辺の散歩や入居以前からのかかりつけ医受診等、これまでの生活を大切にした支援を行っている。	

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等に応じてテーブルの席を考慮し、利用者の居心地の良い場所の提供に努めている。又、他の利用者の下膳をお願いしたり寂しい時の話し相手になっていただいたりお互いが助け合えるように働きかけている。又、今まであまり関わりがないご利用者同士で良い関係作りが出来るようにレク等を行い、配慮しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて手紙を送ったり、入院、入所先を訪問したりして様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞き、確認しづらい時は言葉や行動の中からくみ取り、ケアに活かすように努力している。本人から確認が困難な場合は、家族から話を伺い、又、職員全員で検討し本人の想いに近づけるように努めている。	訪問時にも、入居者に寄り添い、入居者の声に向き合う職員の姿勢が窺えた。入居者だけでなく、日頃からの家族の意見や介護計画作成時の意見等も確認しながら希望・意向を把握し、本人本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を本人、家族、ケアマネジャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努め、暮らしの継続性の実現に努めている。又、入所後も機会をとらえ本人や家族に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を職員全員で細かく観察し記録に残し、気づいた点を情報交換し本人の現在の姿を把握するようにしている。又、有する力が発揮できるように随時、アセスメントを行い生活リハビリに繋げ張りのある生活の支援を行っている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を交えて担当者会議を行い、それぞれの意見を介護計画に反映させている。又、主治医と看護師と連携を取り、職員間でも事業所会議などで必要時にアセスメントを行い意見を取り入れるようにしている。	入居者それぞれの担当職員によるモニタリングの後、職員で意見を出し合い、職員会議も利用し入居者の状況を共有、意見を出し合っている。職員の意見をまとめた介護計画は、家族の意見も取り入れケアマネージャーが作成している。急な状態の変化時には現状に即した介護計画への変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録、業務日誌、バイタル記入表にその日の状態や気づき、職員の対応も記入し、全員が目を通して情報を共有している。又、朝、夕の申し送りや情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で面会が出来ないため利用者、家族から要望もあり、リモートでの面会を実施している。誕生会などにも参加できていないため様子を動画に撮り、送ったりもしている。緊急時や家族の事情による病院受診等、臨機応変に個別ケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターの「マップ」によって地域資源を把握し、迅速に活用出来る様になっている。又、運営推進会議を通して、地域の人たちに協力をお願いして実情を知ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、状況に合わせて適切な医療を受けられるように体制を整えている。又、近くに協力医があり、本人、家族、主治医と相談しながら受診を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状は殆ど入居者が協力医による往診を受けている。歯科からの往診・訪問看護も受け入れている。協力医以外や専門医受診等は出来るだけ家族による通院の協力もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護による健康チェック時に情報や気づきを報告しアドバイスを受けている。又、爪切りなどの衛生面のお手伝いもして頂いている。又、特変時や緊急時も24時間体制にて報告・相談を行っている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、家族や医療機関と相談し、本人の状態を把握しながら出来るだけ早期退院出来るよう情報交換を行い必要な時は家族を交えカンファレンスを行っている。協力機関の訪問看護を利用する等の関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針を本人、家族に説明し同意書にて確認している。終末期の取り組みは行っていない。長期にわたる継続的な医療が必要になった場合は、他の介護保険施設や医療機関を紹介する等の処置を講じている。	重度化や終末期に向けた方針は入居時に本人・家族へ説明し同意を得ている。現状、積極的な終末期の取り組みは行っていないが、医療の必要性等を家族や協力機関等と話し合い、入居者のその時最も適した生活の場の紹介等支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けている。今年度も法人内の研修にて実施している。又、事業所内でも防災訓練と同時に緊急時対応の訓練も行っている。法人本部備え付けのAEDの使用も可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内に特別養護老人ホームがあり、避難誘導活動が出来る様に協力を得ている。又、消防訓練を年に2回(火災訓練、風水害での避難訓練)実施し、消防署に参加していただいている。水、食料品の備蓄も行っている。地域と合同で防災訓練を行ったこともあり、地域との協力体制が取りやすくなっている。	避難訓練時には入居者も参加し、実際の誘導・移動を行っている。法人の他施設も隣接しているが、水・食料品の備蓄は事業所でも行っている。これまでの地域との関わりから、消防団との協力体制もできている。職員研修では動画を利用しAEDの使い方も学んでいる。災害対策の一つとして、毎日夜間も時間を決め、入居者の確認に加え火気確認を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に守秘義務の説明を受けその後も個人情報や記録等、プライバシーに関する物は、厳重に対応するように指導を受けている。又家族に対しては、個人情報の取り扱いに関して契約時に説明を行い同意を得ている。法人内や事業所において言葉使いや接し方の研修を行っている。又、日々のケアにおいても職員同士で確認し合う体制を取っている。	日頃の生活の中では、トイレ・入浴時には1対1での支援を基本とし、気になる場面があった際には職員間で互いに注意しあいながら支援を行っている。職員の「接遇スキルアップ」は今年度の年間計画にも掲げられており、チェックシートの実施や自分の振り返り、入居者に対する接遇方法の検討を事業所会議で行っている。日々のケアでは「接遇に関する3つのスローガン」のもと取り組んでいる。	



グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた生活支援を行っている。又、認知症の進行により、意思決定が困難な利用者に対しては、行動や反応に応じて不快な思いをさせないような対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを配慮して相談しながら行っている。美容では、定期的に訪問美容を利用し、本人の希望に添うようにしている。又、気持ちがうまく伝えられないご利用者には、家族と相談しながら支援している。ご利用者の希望に応じて一緒に服の買い物支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状況に合わせて、調理方法や盛り付け皿を使い分けている。食べたいものの希望を日頃から尋ねるようにしている。毎食時、必ず利用者のそばで一緒に食事を行い(黙食)、準備や、片づけ等、声掛けを行い共に行っている。施設の裏に菜園があり一緒に収穫したり食卓に提供するようにしている。メニューは旬の物を取り入れるようにしている。又、調理師が兼務で食事作りに入っている。年3回は外食を行い、ご利用者の好きな物を食べて楽しんでもらっている。(現在は外食が出来ないため、利用者の希望をとり、寿司などをお持ち帰りし施設で食べている。)	日々の献立は季節の食材や入居者の希望も取入れられ、職員の手作りであるため、その日の入居者の様子や体調にも配慮がなされている。外食も難しくなったことから、時には近所の寿司屋の出前を楽しんだり、そうめん流しやおせち、クリスマス等の季節を感じる献立もある。畑で掘ったサツマイモをおやつに庭でお茶の時間を過ごしたり、流行りのおやつを作ったりと趣向を凝らし、食事が生活の楽しみとなっている。現状では食事作りや片づけの手伝いも難しくなってきたが、できる入居者には関わりを持って頂く取組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食分の食事チェックを行い、利用者全員の水分量のチェックを行い、水分不足にならない様に支援している。摂取状況にあわせ食事形態にも工夫をこらしている。又、月に1回、体重測定を行い、看護師や法人内の栄養士に相談して援助を行っている。献立表のチェックも行いバランスの良い献立を心掛けている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内状態にあわせ訪問歯科や同法人内の歯科衛生士より指導を受け、起床後と毎食後の口腔ケアを行っている。又、そのために必要な備品も個人で揃えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや健康状態を確認するためチェック表を作成している。時間をみて声掛け、誘導を行いおむつ外しに心掛けている。又、その人に合った尿取りパットを選ぶようにしている。手伝うことは最小限にして、自立に向けた支援を行っている。	入居者それぞれの状態把握のため作成しているチェック表も確認しながら、状況に応じて出来るだけトイレでの排泄を支援している。異性介助を嫌がる場面が見られる際には様子を見て対応を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のチェックを行い排便の状態を把握している。それにより必要な方は水分摂取をこころがけ食物繊維を摂取していただき、又、1日2回の体操を行い、なるべく自然排便が行えるように支援している。又、野菜中心でバランスの良い食事の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後2時から4時を予定し利用者の状態に合わせて週2回から3回の割合で支援している。その中でも入りたくない日は無理強いせず日にちをずらす等している。必ずマンツーマンで介助を行い、入浴をゆっくり楽しめるように心掛けている。リフト浴を導入しており出来るだけ湯船に浸かれるよう支援している。季節に合わせてしょうぶ湯やゆず湯も行っている。	週2回以上を基本とし、その日の体調や意向も考慮し支援している。ノーリフティングケアにも取り組んでおり、リフト浴の導入で職員・入居者に負担なく心地よい入浴時間となるよう支援している。着替え準備の際には出来るだけ入居者の意向を確認し、選んで頂くような場面も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、夜間安眠出来るように1日のリズムを整えている。自由に居室にて休むことの出来る利用者は干渉せずに見守りを行っている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬されている薬の薬剤情報の冊子を作成し職員で情報の共有を行い薬に対する知識を高めている。症状に変化があった場合は、主治医に連絡し確認、報告を行っている。処方内容が変わった時は、記録に残し必ず申し送りを行っている。服薬介助においては、薬箱に様々な工夫を行い、3重のチェックを行い誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな番組を鑑賞したりホール内で好きなBGMが聞けるように支援している。又、カラオケを行ったり、買いたい物の希望を聞いて職員が買い物を行っている。又、昔行っていた遊び(トランプ、花札、将棋)を行う。季節のならわしや行事も取り入れ、利用者が主体となって楽しめるように支援している。又、お手伝い等、自然に行えるように場面作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や芝生での日光浴は行えているが、コロナで外出は自粛している。その代わり施設内で楽しんでいただけるように、利用者の希望を聞きながら取り組みを実施している。	以前のような気軽なドライブ等の外出は難しい状況が続いているが、散歩や庭でのティータイム等、日常的に外気を感じる取り組みは継続している。初詣や買い物等、コロナの感染拡大状況を検討しながら出かける機会も作った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人での管理は難しいが家族の要望により財布を本人が持っておられる方がいる。その他の利用者は、家族の依頼により職員側で預り金として管理している。本人の希望する品物を購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があった時やかかけたい時は取り次いでいる。手紙が届いた時は渡したり代読したり返事を書く手伝いをしたりしている。又、届いた手紙が紛失しないように一緒に保管する等の手伝いをしている。希望があった場合はリモート面会も行っており、家族の顔を見ながら話をさせていただいている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体は施設的であるが、毎月季節感を出した装飾品を玄関や壁面に飾り工夫を凝らしている。利用者の写真や絵等の作品を飾り暖かな雰囲気作りに努めている。ホールは吹き抜けで解放感があり大きなベランダからは、景色が眺められる。台所も広く開放的である。トイレも車椅子が入る広さが2か所ありその他に1か所あり明るく衛生的である。	木造で温かい雰囲気のリビングはベランダに繋がっており、その先には手入れがされた芝生の庭が広がっている。ホールから居室への廊下は車椅子でもゆったりと移動することができ、車椅子で利用できるトイレも複数ある。訪問時にはリビングで過ごす入居者の傍には職員の姿もあり、共に時間を過ごす普段の様子を窺うことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやリクライニングソファーを置き自由にくつろげる空間があり安心して過ごせるように工夫をしている。テーブル等の配置も考え利用者同士が交流を図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には各自、今まで使用していた家具や生活用品を持ってきていただき、本人が居心地よく暮らせるように工夫している。カーテンは各部屋色が違ったり、その方に合った表札のデザインを行い、過ごしやすい空間作りを行っている。	居室入り口のカフェカーテンはそれぞれ柄を違え、それぞれの生活空間を思わせるものである。居室には家庭からの持ち込みも多く、家族との関わりを感じる設えとなっている。中には以前の趣味であった手作りの手芸品や家族写真等も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に表札を置いたり、ドアの色を変えたりして利用者が分かる様にしている。トイレの前にトイレと大きく表示して利用者が自立して利用できるようにしている。バリアフリーであり足元の危険物はなくし導線の確保を行っている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム三和の邑  
作成日 令和 4年 10月 5日

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	コロナ禍により地域の方々との交流が難しく実施が出来ていない	コロナ禍が落ち着いたら以前のように地域の方々との交流を図る	地域の行事(夏祭り、餅つきなど)に積極的に参加する。運営推進会議にて委員の方との交流を行う	コロナ禍が落ち着いたら行う
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。